

平成25年度 学校自己評価システムシート（県立南稜高等学校）

2月13日作成

目指す学校像	明るく伸びやかな校風のもと、生徒たちが豊かな心を育み、高い目標に向かって意欲的に活動する学校を目指します。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業、家庭学習を中心とした学習活動の充実と3年間を通じた学力の向上 2. 学校行事や部活動などを通じて自律的、意欲的に行動できる生徒の育成 3. 一人ひとりの進路の充実と進路実現を通じた成長の最大化 4. 家庭・地域とのコミュニケーション深化と、家庭教育との連携強化
------	---

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	20名
	事務局（教職員）	8名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標					年度評価（1月23日現在）		実施日 平成26年2月4日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習が習慣化している生徒がいる一方で、平日の家庭学習時間が少ない生徒も多い。 授業満足度は継続して改善傾向 文科省委託英語力強化事業、CoREFの事業などで公開授業、研究授業の機会が増えている 教科指導に関する外部研修等への参加も定着してきた。更なる成果の共有や有効活用が課題である 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の予習・復習を含めた家庭学習習慣の確立と継続的な学力の向上 研究授業等の機会を活用した授業改善の取り組み、教員間の連携 外部研修等の成果の有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で授業内容・家庭学習対策等の共通理解を図り、生徒自らが取り組む姿勢を育てる。 新教育課程実施に際し、共通理解と学習指導に留意する。 教科会や職員研修会を各事業等の研究授業と連携し各自1回の授業公開を実施して、授業改善の継続に努める。 県教委や予備校等の外部機関の研究會・研修会に参加して得た情報を共有し成果を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活アンケートの家庭学習状況・授業満足度、対前年度比較 各自年1回の授業公開の実施状況と研究授業・公開授業を活用した授業改善の取り組み状況 校外の研修会等への参加とそのフィードバックの状況 	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上のために教科・学年で工夫した取組が行われ、授業満足度は9%増加、平日の家庭学習時間も微増した。 年2回の授業公開週間を中心に教科研修の機会を持ち、各自が公開を意識して授業に臨み授業改善に取り組んだ。 外部機関の研修会等で得た情報を教科や分掌で共有し、進学指導・キャリア教育に活用した。 	B A B	<ul style="list-style-type: none"> より多くの生徒が家庭学習習慣を確立するために、授業改善・家庭学習対策に継続して取り組む。 年2回の公開週間を活用し、教科研修の充実と教員間の相互理解に努め、さらに授業改善を図る。 新しい情報の共有を意識して、引き続き外部機関の研修会等を有効に利用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 臨時的任用教諭がいるが、研修は行われているのか。 校内研修を行い、効果を上げている。また、予備校の講座を活用し研修している教員も多い。 家庭学習時間と部活動の加入率との相関関係が知りたい。 課業日は部活動で勉強時間の確保が難しく、土日しかできないが、生徒との話し合いの中で確保させたい。
2	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻や身だしなみなど基本的な生活習慣の改善が続いている 部活動での活躍が増え継続率が向上し、生徒の意欲も増している 自転車の事故防止指導、マナーの改善指導が必要である 携帯電話、ネット利用に関する、トラブルが発生している アルバイトをする生徒が多いと同時に無届けも多い 盗難や性犯罪等への防犯意識の強化と発生時の迅速、的確な対応が必要である 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の定着 部活動への支援、活動状況の把握 通学状況の把握及び家庭、地域との連携 携帯電話マナーでの県教委との連携 学校生活との関連、家庭との連携 事故や事件の防止と発生時の対応 	<ul style="list-style-type: none"> 身だしなみ指導、遅刻指導を徹底して行う 活動状況や加入状況を把握する 特に自転車の交通安全、マナー向上に向けた注意喚起及び学校周辺指導を実施する 携帯電話利用による犯罪・トラブルの実態を周知させる 携帯電話のマナーの向上を図る 講話や掲示物により、防犯意識を高揚させる 発生時の状況把握と対応を迅速に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の身だしなみや遅刻の状況 チャイムtoチャイムの徹底状況 活動実績や活動継続率、未加入者等の把握 交通事故件数の推移 通学状況の把握 ネットトラブル件数の推移 アンケートによるアルバイト実態の把握と届の提出状況 事故や事件の実数と対応状況 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の改善は継続。 部活動の生徒数、内容とも向上。 通学状況は改善もあったが、交通事故やマナー違反もあった。 携帯電話の利用は一部マナー違反はあったが概ね良好であった。 アルバイトや普通運転免許等については、家庭との連携を密にとり状況把握ができた。 交通事故や盗難防止の注意喚起をしたが、件数は横ばい。事後は警察や保護者とスムーズに連携して対応できた。 	B B C B A B	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立については継続的指導が必要である。 部活動においては中途退部者について継続性を持たせることが課題である 交通事故や盗難防止、アルバイトや携帯電話の使用等における安全指導についての取組を強化し、さらに保護者、地域住民、警察との連携を引き続き密にとること必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ロードバンプの設置により自転車の飛び出しや一時停止を励行させる指導は良い。 盗難の報告があり、残念であるが、調査等は行っている。生徒自身の自己管理も急務である。 資料によれば、毎年大幅に、遅刻者が減少が続いているのは、生徒指導と朝学習等の効果と思われる。 学校満足度グラフと部活動加入率の年次変化のグラフが同じ形である。文武両道の学校の特色が出ており、好ましい傾向である。 ネット利用や「なりすまし」でのツイッター等のトラブルが増えているが、教員の研修会を行っている。 スマートフォン等の使用時間数とラインメールに起因する「いじめ」やネットの悪用に対して学校の取組では限界なのでないか。自主規制に任せない方がよい。
3	<ul style="list-style-type: none"> 年々高まる進学志向の中でも、大学・短大への進学の漸増、専門学校への進学の漸減の傾向が続いている 一般入試・センター利用入試による受験が増加傾向にあり、高い目標設定の下、最後までチャレンジする生徒も増えてきた 一般受験クラスのスタートで、多様な進路希望へのフォロー体制が整ったが、広がり乏しい進路意識開拓も含め、バランスの取れた計画的指導が求められる 	<ul style="list-style-type: none"> 学問研究分野への興味や資格・技術取得等を見据えた進路選択をサポートする体制構築強化 一般受験への意欲喚起・継続の工夫と、センター受験への生徒の意識付けと教員の指導対策強化 長期・短期をリンクさせた進路学習・行事の効果的推進 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の意欲喚起を促す行事の工夫と、効果的推進のための情報入手・活用、教員のスキルアップを目指す研修会の工夫 センター試験の役割を認識させる行事の継続的実施と、セミナーの計画的実施、及び模試結果の効果的活用 就職を含め多様な進路に配慮する3年間を通じた段階的・系統的指導の推進と、行事ごとの検証・精選のための情報交換及び工夫改善 	<ul style="list-style-type: none"> 行事実施後の生徒の相談申込みや進路資料室利用、資料貸出等の頻度。教員研修会内容の活用度 センター試験、一般入試の上位校志望や受験の状況・セミナー出席者数・模試受験者数の増加率 行事検証機会の増加。一般受験クラスへの希望状況。進路開拓意欲向上や志向拡大の把握に繋がる進路相談機会の頻度 	<ul style="list-style-type: none"> 最後まで諦めずに受験に向う姿勢の生徒や、公務員を目指して早期から準備する生徒が増え、相談や資料利用のための来室者が一層増加した。 センター試験と関連づけた計画的集会の開催により、受験意識の形成や維持が図られた。模試を含め受験者数が一層増加しデータ活用による指導も進んだ。 将来を見据えての堅実な進路志向は増加したが、選択範囲にはまだ拡大の余地あり。 	A A B	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な情報・資料の取捨選択と発信の一層の工夫 低学年層の進路室利用機会を増やすための工夫 センター入試対策の受験指導の一層の組織化と、データ活用の推進 進路意識を高め、実現に努力する姿勢の育成と、選択範囲拡大に繋がる計画的指導の構築へ向けての工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 民間企業への就職が、年々減少しているが、高校での就職がないのは、キャリア教育が進んでないのか。 「働かなければならない生徒・家庭」が少なくなってきたのではないかな。 アンケートでは相変わらずスマホ等の使用時間が長いですが、この集中力を勉強に生かしてほしい。 テストの時に不正行為がないように、考査中は不要な物は鞆の中に仕舞わせている。
4	<ul style="list-style-type: none"> 活力ある学校として地域で評価され、志願者が増えている PTAは、7月の高P連関東大会で「PTAと防災教育」の分科会の運営を担当する。 保護者の授業公開や大学見学などへの参加は伸び悩み 防災での地域、保護者との連携強化が課題 	<ul style="list-style-type: none"> 学校関係者や地域からの評価 PTA活動への保護者の参加状況 防災教育、防災活動の取り組みと成果 	<ul style="list-style-type: none"> 校報「なんりょう」などを通じ、学校およびPTAの広報活動をさらに充実させる 保護者の防災活動への参加、防災関連情報の共有を促進し家庭との連携体制を強化する 高P連関東大会を保護者の協力を得て成功させる 保護者の授業参観や進路行事などへの参加を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートの評価、地域の評判、学校評議員会・評価懇話会での評価 入試倍率 PTA活動の参加者数(特に授業参観、進路関係と防災関係)、活動内容の変化 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートでは学校への全体的な満足度は向上したが、個別の設定問では「分からない」という回答が増加し回答率も低下した。 学校HPの閲覧数が2割以上減少している。 保護者の行事参加は増えなかった。 PTA役員の活動は活性化し、高P連での発表、運営等で貢献した。 	B B A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への情報提供のあり方(媒体や時期、頻度、内容等)を検討する PTA活動においては役員以外の保護者の参加促進についてPTAの中でも検討する 防災に関する学校と保護者、地域との連携を継続、促進する 	<ul style="list-style-type: none"> 中学・高校の連携は進んでない。例えば部活動で中・高の練習試合は、できないか。 来年度は、笹目中学校では体育館の大規模改修があり、部活動の練習場所の問題がある。部活動の交流を受け入れてほしい。 HPの閲覧数が減少気味、固定閲覧者が減った。